



# ワークシートの作り方・使い方

元全国中学校社会科教育研究会会長 赤坂 寅夫



【質問】ワークシートはなぜ作るのか、その意義と作る際のポイントを教えてください。

## その一 ワークシートの重要性

かつて昭和の時代には知識偏重型の授業が行われていましたが、令和の時代の授業は生徒が主体であり、重要語句を覚えるのではなく、事象を基にいかに関心・思考・判断し、表現するかが学習活動の中心です。したがってワークシートを活用した学習活動は、地図やグラフ、年表、史料等の教材を読み取り、それを基に思考・判断し、その考えを表現する活動となるでしょう。現行学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」が求められており、指導者に対しては学習者の「主体的に学習に取り組む態度」の評価が求められています。また、ワークシートは、学習者が読み取った内容、思考・判断の内容や過程など、学習の過程や成果が記されたものです。指導者はそこから育成しようとした学力がきちんと身についているかを見取り、評価します。ワークシートは学習者にとって学習活動の足跡を記したものであり、授業者にとっては評価の重要な対象でもあるため、ワークシートを作成する際には工夫が必要です。

### ポイント①



ワークシートは、学習の過程や成果が記されたものであり、評価の対象として工夫が必要

## その二 発達段階に応じたワークシートの種類とレベル

中学校社会科の学習は3年間にわたるので、中学校に入学したての1学年1学期と2学年3

学期や3学年とでは学力に大きな違いがあります。3年間の地理・歴史・公民の学習において、どのような知識・技能を身につけさせ、思考・判断・表現の力を向上させるか、スパイラルな指導計画・評価計画を作成しなければなりません。1学年1学期でいきなり深い思考・判断を問うワークシート、2学年3学期や3学年で単なる知識を確認する穴埋め式や資料の読み取りのみを問うワークシートは、発達段階を考慮しない不適切なものといえます。

例えば地理的分野での学習においては、地理的技能や地理的な見方・考え方の発達を考慮すると、おおよそ以下のような段階が考えられます。

- a 略図などの作図、雨温図の作成など単純な作業を行う。
- b 地図や写真、資料の読み取りを行い、分かったことを記入する。
- c 地理的な見方・考え方を働かせながら資料等の読み取りを行う。あるいは地理的事象について自分の考えを記入する。
- d 自分の考えをグループや学級全体による討論を基に深める。あるいは再構築する。

2年間の地理的分野の学習の中で学習活動がaからdへと深化し、作業や思考のレベルが高まり、ワークシートに記入される内容も量的質的に高まっていきます。それに伴って、a→b→c→dとスパイラルにワークシートの質を高めることが大切です。a・b・c・dそれぞれの段階のワークシートを独立して作ることも考えられますが、実際は、aとb、bとc、cとdなどと組み合わせたものが多く作られるでしょう。なかでも最も多く作られるのがbとc

を組み合わせたものではないでしょうか。また、思考・判断・表現の能力を育成し、深い学びや協働的な学習を目指す単元では、cとdを組み合わせたワークシートにするなど、単元による工夫も必要です。これらは地理的分野に限らず、歴史・公民の学習にもあてはまります。

**ポイント2**



**発達段階とレベルに合わせたワークシートを作り、スパイラルな成長を目指すこと**

**その三 資料の読み取りから見方・考え方を働かせるワークシート**

社会科では、地図や図版、写真資料、統計グラフ、史料等の読み取りから分かったことを記入し、そのことが見られる理由、背景、制度などを考えさせる学習が多く行われ、そのような学習に対応したワークシートが最も活用されるでしょう。

ここでは、『中学校社会科地図』（以下、地図帳）の図版を活用した「日本の気候の特色」のワークシートでの学習事例を紹介します。

○学習課題 「日本の気候は、季節や地域によってどのような違いがあるのだろうか。」

○ねらい 季節や地域による気候の違いとその理由を多面的に探る。

① 地図帳p.147「①日本の気候区分」の「アおもな都市の気温と降水量」（図1）で東京と上越（高田）の雨温図を比較し、気付いたこと・分かったことを記入しよう。

※単に気温が高い低い、雨が多い少ないだけでなく、地図帳p.166のおもな都市の気候に関わる統計から年平均気温、年降水量、最高・最低気温、最高・最低降水量に着目させます。具体的なデータで比較させることが正確に地理的な見方・考え方を働かせるうえで重要です。

② 東京と上越（高田）の季節による違いの理由を地図帳p.148「⑦季節風による天気の違い（冬）」の図から読み取り、地形・季節風の面から考え、記入しよう。

※単に山や季節風という表現ではなく、越後山脈、関東平野、南東の季節風、北西の季節風など、具体的な地名や用語で記入させます。

③ 同様に松本と高松の雨温図を比較し、違い

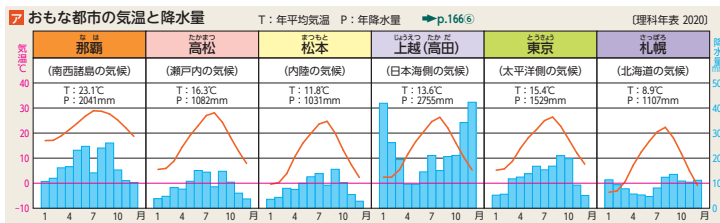


図1 『中学校社会科地図』 p.147  
①日本の気候区分 アおもな都市の気温と降水量

と共通点を見だし、その理由を記入しよう。

④ 同様に札幌と那覇の雨温図を比較し、違いと共通点を見だし、その理由を記入しよう。

※海流に着目させ、単に暖流、寒流だけでなく、暖流の黒潮（日本海流）、寒流の親潮（千島海流）といった具体的な用語で記入させます。

⑤ これまでの活動で分かったことを記入しよう。

※日本の気候は六つの気候区に区分できること、地形、季節風、海流などの影響を受けて多様な特色を持っていることを理解させましょう。

おもな都市の雨温図を比較し、違いや共通点を探る活動、その理由を地形、季節風、海流等の図を関連させて探る活動、さらにまとめの活動として、六つの気候区に区分できることをワークシートに記入することにより、活動＝思考のプロセスが記録されることとなります。これらが学習者にとっては学習活動の振り返りの材料、指導者にとっては評価の材料となります。

**ポイント3**



**複数の資料の比較・関連から、見方・考え方を働かせる活動に沿ったワークシートになるよう工夫する**

**その四 見方・考え方を働かせ、考えを深める協働的な学びのためのワークシート**

今学校教育では、生徒個々の主体的な学習にとどまらず、生徒相互の協働的な学習による「対話的な学び」「深い学び」が求められています。この「対話的な学び」「深い学び」のために、より多くの仲間と話し合い解釈・意見を交流し、下記のAからDまでの過程を記述するワークシートが必要と考えます（図2、次頁）。

- A 読み取ったことを基にした自分の解釈・意見
- B グループで話し合って得た解釈・意見
- C 学級全体で話し合って得た解釈・意見
- D B・Cの話し合いを受けて再構築した自分の解釈・意見

この活動は話し合いに時間を要することから

1. 次の資料1～3を見て、わかったことをそれぞれ記入しなさい。
2. 資料1～3を関連させてわかったことを記入しなさい。
3. 自分の考えをグループ内で発表し合い、気づいたこと・わかったことを記入しなさい。
4. グループでの意見を学級全体で話し合い、気づいたこと・わかったことを記入しなさい。
5. グループでの意見、学級全体の話し合いをふまえて、自分の考えを再構築しなさい。

資料1	資料2	資料3
1. わかったこと	1. わかったこと	1. わかったこと
2. 関連させてわかったこと		
3. グループで発表し合い、気づいたこと・わかったこと		
4. 学級全体で話し合い、気づいたこと・わかったこと		
5. 自分の考えの再構築		

図2 トラの巻①で示したワークシートの形式

毎時間・毎単元はできませんが、前述したように生徒の思考のプロセスや学び合いをスパイラルに向上させるために、年間数回、特に2学年後半や3学年ではぜひ実施したいものです。

ワークシートは、前述したように学習活動のプロセスを記したものであり、育成しようとした学力が生徒にきちんと身につけているかを評価するためのものでもあります。そのため、ワークシートの評価は丁寧に行いたいものです。評価の観点の例を以下に示します。

①作業…指示に従い正確に作業している。【知識・技能の観点】

②資料の読み取り…資料活用の技能の観点から、資料に示された事実・事象を見方・考え方に基づいてきちんと読み取っている。【知識・技能の観点】

例えば前述の「日本の気候の特色」を探る活動では、①～④の活動において違いや共通点を正確に読み取っているかどうかを評価します。

③自分の解釈・意見の記入…提示した課題に対してあるいは資料から読み取ったことを基にして、根拠を示して自分の解釈・意見を述べている。【思考・判断・表現の観点】

例えば前述の「日本の気候の特色」を探る活動では、②～⑤の活動において、違いや共通点の根拠を示し、筋の通った説明をしているかどうかで評価し

ます。

④考えの再構築…他者の意見を踏まえて、自分の解釈・考えを深めているかどうかを評価します。【主体的に学習に取り組む態度の観点】

ワークシートの記入に際して、事前に評価の観点を明示するとともにループリッ的な基準を示すことも生徒の励みとなります。例えば、前述の「日本の気候の特色」を探る活動では、以下の基準が考えられます。

A評価：日本の気候の季節や地域による違いとその理由を、図から読み取った地形、季節風、海流などから多面的に、具体的地名や用語を用いて説明している。

B評価：日本の気候の季節や地域による違いとその理由を、図から読み取った地形、季節風、海流のうち2つの要素から、あるいは具体的地名や用語は用いず一般名称のみで説明している。

C評価：日本の気候の季節や地域による違いとその理由を1つの要素、あるいは簡単な説明で終えている。

生徒が一生懸命記入したワークシートですから丁寧に読み取るとともに、その成果を生徒に返してあげたいものです。時間がない場合はアンダーラインで、時間があるときは一言二言コメントを付けて返しましょう。

また、社会科のワークシートを3年間保管させ、1学年当初からの記述の変容を生徒みずから読み取らせ、3年間の成長の軌跡を自己評価させるポートフォリオ的な評価をさせることも可能です。

#### ポイント④



協働的な学び・深い学びに応える評価をすること

学習者にとって活動しやすく学びを深めるワークシートとするためには、問い（課題）の設定や在り方が重要です。これについては次回、事例を示しながら解説する予定です。

※（編集部より）ワークシートについてはトラの巻①でも詳しく解説しています。トラの巻のバックナンバーはこちらからご覧いただけます（無料の会員登録が必要です）。

